

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	武雄市立若木小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、例年通りの取組にこだわらずに、限られた条件に合わせて軌道修正しながら取り組むことができた。 小規模校の強みをいかして、職員間での相談や課題の共有を重ねた結果、全体的におおむね良好な結果となった。 保護者や地域の方に対して来校を制限する場面、逆に児童が地域に出向いての学習を控える場面が多かった。 コロナ自粛の継続が予想されるため、直接対面ではなくとも可能な情報発信、意見交換の場や方法を検討する必要がある。
---------------	---

2 学校教育目標	ふるさと「若木」を愛するたくましい若木っ子の育成
----------	--------------------------

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 授業改善やICT機器の利活用、望ましい学習習慣の定着を図ることで「わかる子ども」を育成する。 人権教育や特別活動を充実させることで「かんしゃする子ども」を育成する。 食育指導や体育行事、保健指導の充実を図ることで心身ともに健康な「きたえる子ども」を育成する。 地域の特徴・人材を活用する若木ならではの教育活動を行い、地域との連携を図るとともに、業務の改善を図る
------------	---

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目

重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	●国算社理の各教科で、西部型授業の流れにそって、子どもが主体となった問題解決学習を充実させる。	B	●マイプランの成果指標を達成できたと自己申告する教師は83%。	A	●マイプランの成果指標を達成できたと自己申告する教師は100%。	A	学力向上をめぐって、問題解決学習、ICTを活用した授業やマイプラン導入等の具体的な取り組みを全職員で実践することができている。これらの取り組みが、学習の充実や成果、主体的な学びにつながっている。	【わかる部会】 学力向上コーディネーター 研究主任
	◎いろいろな教科の中で、自分の考えを表現するための書く活動を取り入れる。	◎学校評価アンケートによる自己評価で、「書く活動」を取り入れた、自分の考えを伝える力を育てる指導を行った。の達成率が90%以上	●各教科の中で、ノートやワークシートに自分の考えを書く活動を取り入れ、自分の考えを伝える力を育てる。	A	●書く活動を取り入れ、自分の考えを伝える力を育てる指導を行ったと自己申告する教師は95%。	A	●書く活動ができていると答えた教師がおおむね100%。さらに学力向上につながるよう、各教科で書く活動の工夫をすすめている。	A	●家庭学習(宿題等)を見守り、丁寧な愛情をもって指導されている。授業においても具体的に書く活動を取り入れられており、今後自分の考え・意見を述べる活動と合わせて継続的に指導していただきたい。	【わかる部会】 学力向上コーディネーター 各教科主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答した児童80%以上 ○学校・地域の美化活動の実施率90%以上	●人権集会の振り返りや道徳アンケートの実施 ●全校で苗植え、水やりを行う花いっぱい活動の実施	A	●道徳に関する保護者へのアンケートでは、授業に対する肯定的な意見が100%であった。 ●7月に平和集会を実施し、平和への思いを高めることができた。 ●花いっぱい活動は、1月に実施予定。	A	●平和集会では、放送・集金委員会の児童の調べをもとにスライド発表を行い、戦争の悲惨さや平和の意義について考えることができた。 ●人権集会では、各学級の一人一人のよいところを「えがいの花壇」の掲示物にまもる、それぞれによさがあることを再確認することができた。 ●ふれあい道徳や豪雨災害への募金活動、花の苗植えボランティアなどの様々な教育活動を通じて、道徳心を育てることができた。	A	授業や行事、朝の活動への参観機会は少なかつたが、お互いを思いやる心や優しい心などを育ててもらっていると強く感じる。災害に際して人の心の痛みを感じ、募金活動として行動に移すことができたことは高く評価している。	【かんしゃ部会】 道徳教育推進教員 人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめ防止など(いじめ防止のための取り組み)について組織的な対応ができていると回答した教員90%以上	●心のアンケートや生活アンケートを年間6回実施し、いじめの早期発見早期対応に努める。 ●普通連絡会において児童の様子などを確認し、いじめ、対応が必要な場合は、対策会議を開く。	A	●心のアンケート等を実施し(5月9日)、担任による面談を児童全員に行うことで、児童の悩みを寄り添うことができ、いじめの早期発見、早期対応ができた。 ●教育相談の研修会を8月に実施できた。また、SC来校日を周知徹底することで、継続的なカウンセリングが実施できた。	A	●心のアンケートや生活アンケートを年間5回実施した。児童全員に担任による面談を行うことで、児童の悩みを寄り添い、いじめの早期発見、早期対応もできた。 ●普通連絡会での、児童の様子などを確認し、いじめ、対応が必要な時は、対策会議を開いたり、SCにつながる継続的なカウンセリングを行うことができた。	A	いつでもどこでも起こり得る「いじめ」に対し、早期発見・早期対応をさせていただいている。アンケートや面談、研修等の、いじめをなくす取組を全職員、保護者、関係組織で連携・共有できている点も評価できる。	【かんしゃ部会】 生徒指導主事 教育相談担当
	○(学校独自重点取組・任意)	○委員会活動やクラブ活動を100%実施する。 ○なかよし活動(縦割り班)や空教室を100%実施する。	●委員会活動やクラブ活動を年間計画通り実施し、集団への所属感や連帯感を味わわせる。 ●児童の自主性を尊重した活動を設定し、異学年の仲間と互いに助け合う雰囲気を作る。	A	●クラブ、委員会、代表委員会を予定通り100%実施できた。また、活動の1週間前にリーダー会議を行い、活性化を図った。 ●なかよし活動の他、代表委員会が決まった縦割り班による遊びを3回実施でき、異学年との交流が深まった。	A	●クラブ・委員会活動、代表委員会ともに、年間計画通り行うことができた。どの活動においても児童の思いや願いを尊重し、その実現に向け手立を取ったことで、児童の自主的・自治的な姿を垣間見ることができた。 ●コロナウイルス感染症対策に十分に関心しながらなかよし活動を全て実施したことで、異学年での連帯感を味わわせることができた。	A	コロナ禍においても、特別活動を計画的に行い、子ども同士とのつながりを深める最大限の活動が実施されている。なかよし活動や集団空教室、異学年交流等も見直しをしながら継続していただきた。	【かんしゃ部会】 特別活動担当 委員会活動担当 クラブ活動担当
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●進んで運動に取り組み、体育授業や体を動かすことが楽しいという児童の増加を目指す。(児童アンケート達成率90%) ●「早寝・早起き・朝ご飯」を徹底し、よりよい生活リズムの定着を図る。(児童アンケート達成率90%) ●発達段階に合わせた食に関する指導を行い、6年間で様々な食の力が身につくよう、系統的に指導する。 ○(学校独自重点取組・任意)	●体育的行事や授業の工夫に加え、運動委員会の活動を充実させる。 ●食からの新鮮果物調査(6月、9月)等を活用して、よりよい生活リズムの定着に向けての啓発を行う。 ●栄養士と学級担任で、食に関する指導や給食時間を充実させ、学年に応じた食に関する力が身につくよう系統的に指導を行う。	A	●外遊びを奨励する取組を運動委員会が計画し、2学期に実施する予定である。 ●生活リズムチェック週間を活用し、児童の実態把握に努めた。保健士と連携し、早寝・早起き・朝ご飯の大切さについて家庭への啓発を行った。 ●低学年を中心に、食育動画を活用し、食に関する指導を行うことができた。	B	●目標は達成できたが、コロナ禍でも外遊びや全校遊びの計画を具体的に検討し、実施すべきであった。 ●「早寝早起き朝ごはん」については、アンケート結果より、「ややあてはまる」の傾向が高かったため、今後も継続して指導していく必要がある。 ●児童集会や食育動画を活用した指導はできたが、各学年で計画的に食に関する指導が実施できるよう、計画を具体的に検討すべきであった。	A	コロナ禍で活動が十分にできず運動・遊びが全国的に減少傾向にある中、目標達成のための教育でしっかりと行なわれている。運動速いや体力低下にならないよう、運動、食事、睡眠等の面についても伝えていただきたい。	【きたえる部会】 保健主事 養護教諭 学校栄養職員
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	●会議や研修における時間枠の設定、校務サポートでの情報共有により、業務の効率化を図る。 ●タイムカード利用により職員個々のタイムマネジメントへの意識を高め、超過勤務を前年度比で短縮する。 ●学校行事の精選・効率化を図り、職員の年休取得を推進する。	B	●会議や研修等は設定した時間内での実施ができていた。スズキ校務の導入により、さらに効率化を進めたい。 ●超過勤務時間は前年度比若干増えている状態である。繁忙時のメリハリをつけるように意識を高めたい。 ●夏季休業中の研修日配置の工夫が、年休取得の促進につながった。	A	●オンライン授業等のコロナ対応に時間を要したが、業務の効率化とタイムマネジメントへの意識が向上し、超過勤務時間の平均は月35時間で、前年比5時間の減となった。 ●学校行事や職員研修日等、年間を通して精選や効率化・実施日の工夫を行った結果、年休取得の平均が11日と昨年並みとなった。	A	先生方への期待度は児童だけでなく保護者、地域からも大きい。先生方の健康あつての教育であることももちろんだが、地域の中学校、子ども・家庭あつての学校であることを念頭に、働き方改革の推進に向けて継続的に取り組んでほしい。	管理職
○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自重点取組・任意)

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○	○(学校独自重点取組・任意)									
○	○(学校独自重点取組・任意)									
○	○(学校独自重点取組・任意)									

●...県共通 ○...学校独自 ○...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響で教育のICT化が急激に進んだ。職員のスキルも格段に上がり、授業のライブ配信やオンライン授業等を抵抗なく行えるようになったことで、児童の学習保障はもちろん、児童保護者の安心にもつながっている。 小規模校の強みをいかして、職員間での相談や課題の共有を重ねた結果、児童・保護者アンケート、職員アンケートにおいて全体的におおむね良好な結果となった。 「コロナのためにできなかった」というネガティブな意見もまだ多い。「コロナだったけれどこんなことができた」とポジティブにとらえられるよう、カリキュラムや行事計画を見直しして必要性を感じる。
----------------	---